

# ～土砂災害啓発センター便り～

(第2号 H29.1)



## 啓発コーナー

(センターで実施している取り組みについて紹介)

土砂災害啓発センターでは、平成23年9月の台風12号による紀伊半島大水害などの甚大な被害を繰り返さないために、土砂災害の記憶を後世に伝えるとともに、土砂災害に関する研究の拠点として平成28年4月より活動を行っています。オープンより全国各地からのほか、海外からの多数の方に訪問して頂いております。平成28年12月末までの約6か月間の来館者数は約9,300人、研修受入回数は90回（内訳 県内50回、県外40回）を数えています。研修では和歌山県内各地はもとより、近畿・四国地方、遠くは千葉県からも申し込み頂きました。また、チリ及び中南米地域の政府機関関係者や研究者の方々にも来て頂きました。今後も皆様のご来館、研修の申し込みをお待ちしております。

土砂災害啓発センターでは、団体での土砂災害に関する研修を受け入れてます。研修をご希望の方は、希望日の一か月前までに電話もしくはメールにて事前にご連絡下さい。なお、研修室の使用状況等によりご希望に沿えない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

## 【問い合わせ先】

和歌山県土砂災害啓発センター TEL:0735-29-7531 メール: e0806041@pref.wakayama.lg.jp

「～土砂災害啓発センター便り～」では、当施設が取り組んでいる啓発活動や研究内容などを皆様に分かりやすく紹介していきます。これから様々な内容について紹介していきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 啓発コーナー

第2回、第3回「ワダイの防災カフェ」開催！

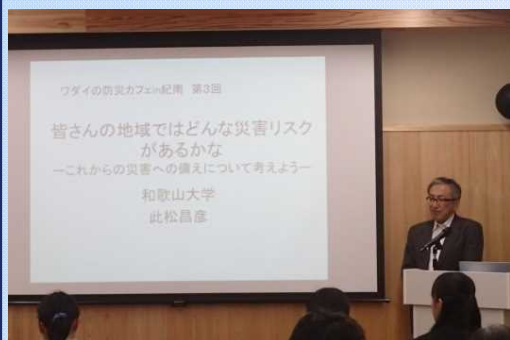
第2回の「災害時避難支援システム」について和歌山大学の吉野教授から、第3回「防災教育」について和歌山大学の此松教授からそれぞれ講義して頂きました。吉野教授からは年月が経つと防災意識が薄れていくことなどが述べられ、その後、スマートフォンを用いたマイ防災マップの作成を体験しました。此松教授からは、人は自分の身に起きる被害を想定できない災害から身を守ることは困難なので、事前に災害で起きる現象を知っておくことが大切だと述べられました。



和歌山大学の吉野教授(第2回)



スマートフォンのアプリを利用した防災マップの作成を体験(第2回)



和歌山大学の此松教授(第3回)



当日、紀伊半島で発生した最大震度4の地震について解説(第3回)



地震計を置いた机を揺らして震度の計測実験(この実験では震度5を計測)(第3回)

## 砂防マメ知識

(砂防に関わるいろいろな情報を紹介)

### 「土砂災害を知る」

土砂災害の種類は『土石流』『地すべり』『がけ崩れ』と大きく3つに分けられます。

『地すべり』とは、比較的緩やかな斜面において地中の粘土層など滑りやすい面を境界として地下水の影響で地面がゆっくりと動き出す現象です。一度に広い範囲が動くので、ひとたび発生すると住宅、田畑、道路、鉄道などに大きな被害を及ぼします。また、川がせき止められ、それが決壊すると下流に大災害をもたらすこともあります。(県砂防課ホームページより)



地すべりのイメージ図



発生した地すべりにより斜面下部の川がせき止められています